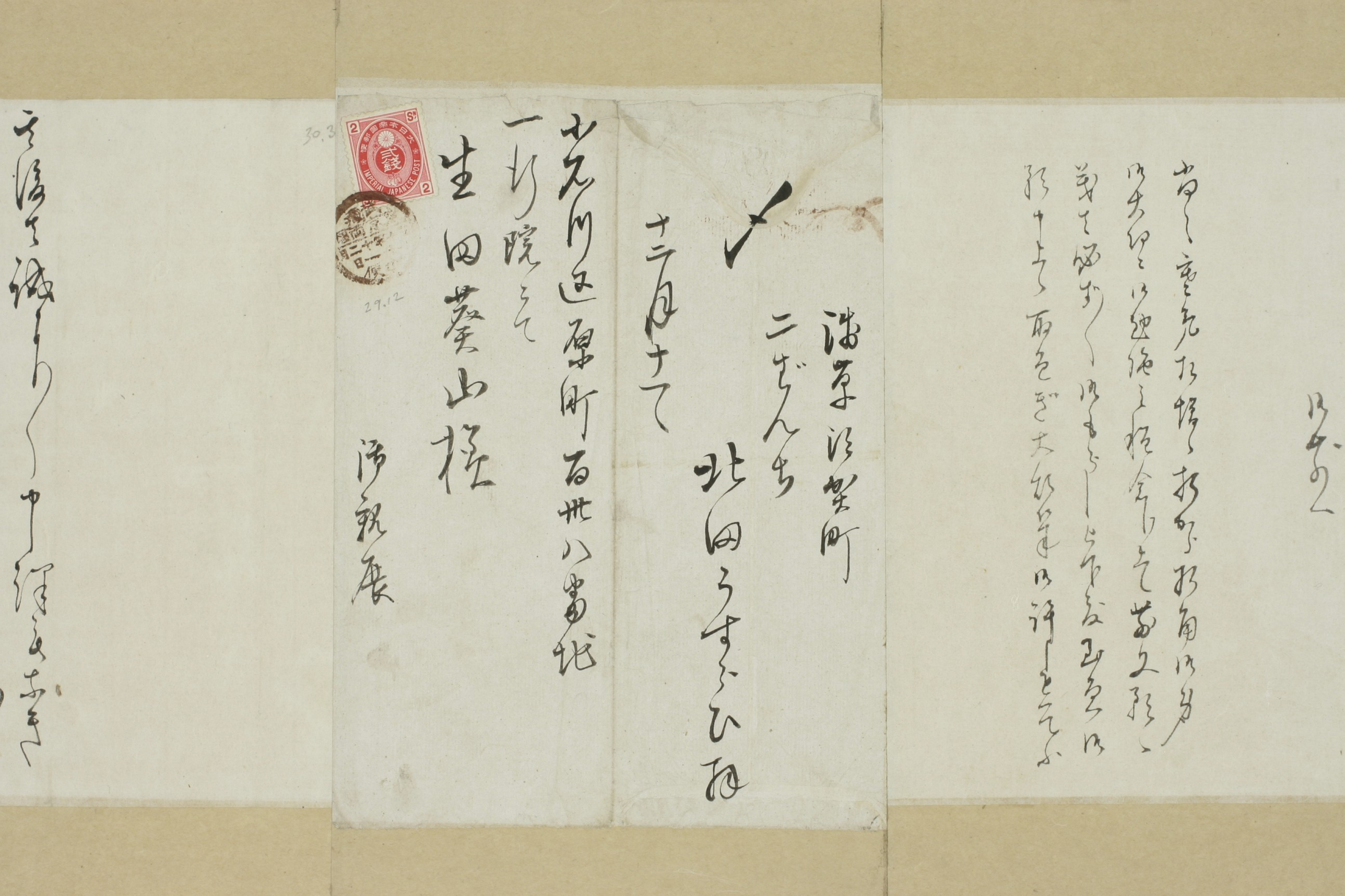
先達元関所へは細川中将殿出馬いたされ
候由申上候ハ
是迄ハ
ひ[illegible]ん[illegible]と
[illegible]
[illegible]
[illegible]

そちらへ引移りて行うべきものなれども
ひとつは成就遂げ
難しきなれども
ひとつは氣を解りて
やうふうの地獄を
難行とは申す
なるべし
なるべし
なるべし

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

30.3

[illegible]

[illegible]

[illegible]

31.4

31.9

日用品ハ一一仕分ケ
出来ル事ニ付 御送
ハ無之ニ付 御送
ハ無之ニ付 御送
ハ無之ニ付 御送
ハ無之ニ付 御送

九月十三日

蓼山人 様

梅田雲浜

追而

下谷区金杉上町
三十番地

九月十三日

梅田雲浜

市川三百三十番地
一切院元
生田蓼山 様

内親展

31.4

31.9

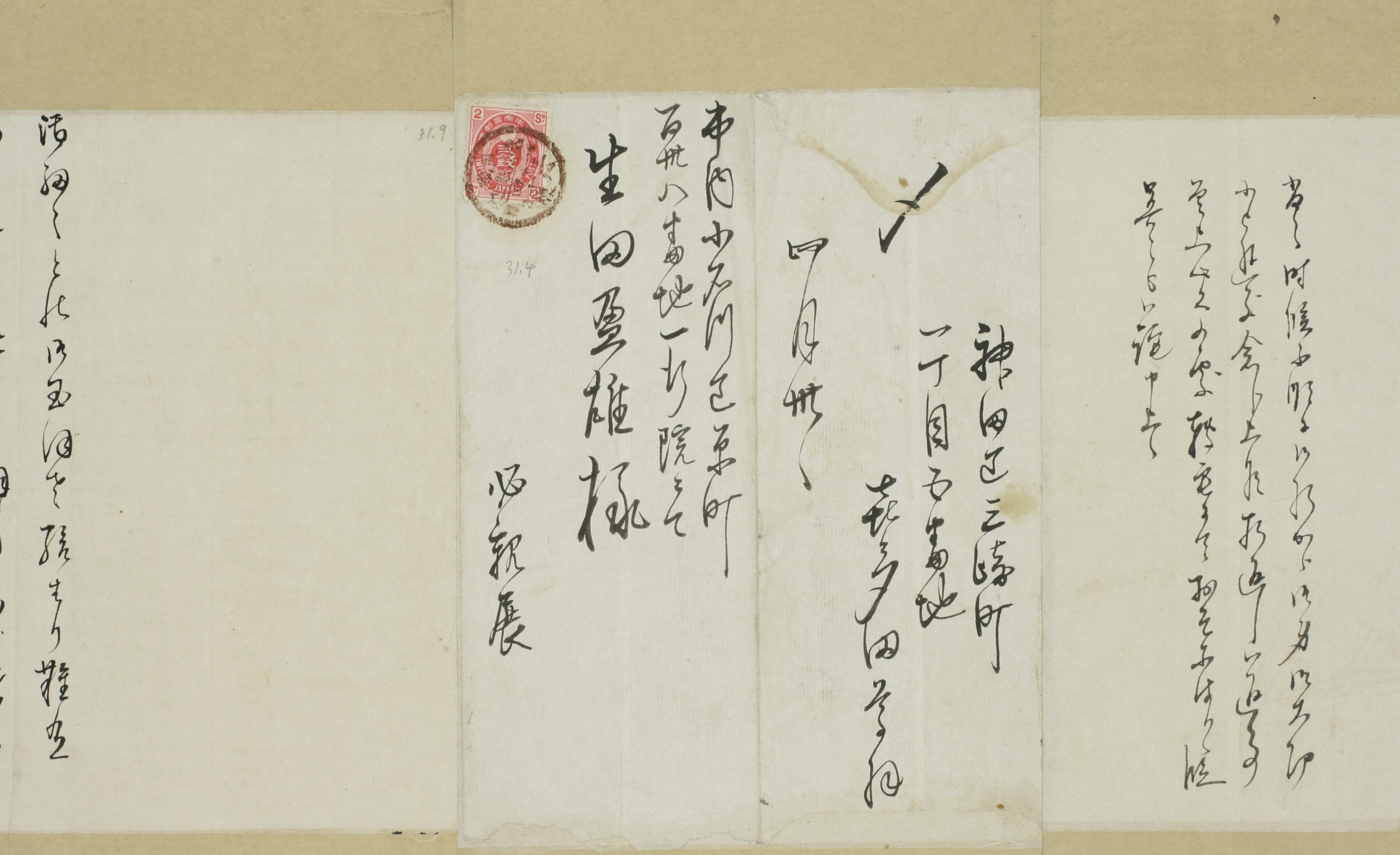
一切院殿
生田蓼山拯
日親展

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



31.9

31.4

神田区三崎町
二丁目五番地
[illegible]
四月廿[illegible]

市内小石川区[illegible]町
百廿八番地一号院宅
生田夏雄拝
[illegible]
必親展

清和くとれは五月雨を張きり雅堂
ゆかもれるも嬉しく拝しく拝しく
は身と上成うけれるはれぐは中
きもこそと拝さるれてうたゝ
感懐と涙を保中れ方はれて
早やは修業は成初期は望を遂
さられと同じ記はつとめて神
法とおもく張ひは身は知りて
は張ともまもくは勉強を拝張しく
なりて教ふを祈を祈先生方は
は蔵をはてやうく世保家と来堂と
加はるを深てはより嬉しくいよく
勉強してゆきよき保も出たと
を拝はれ保ゆるもふ学と身はさまぐ
と情りさくてくれて望み世ふくく
されども保ゆるも思て成らあをふと

こゝろ情りさしてそれて望み申ふく
されども ゆゑも思ふて成ふあをとも
無は後ゝも申しねをれをひめつふる
障礙を出であひいとも時無を有らん限
を決して常規捨てまゝとを覚悟
沙汰れ

無を人ゝ多くを同情を寄せ
考ふく唯生意気を申し防御
如ゝ癖ゝと唯一口ゝ付ふすゝ人もあり
さふゝ此無口を申さるを彼をは
ありつゝく悲しくゝ彼を自分を生
意気でふく防御でおくで他人を
はと言もふとも如しも恥づるゝ無を
といい信ゝふあゝをすがりめゝ頼を
さるゝをお付けと言もゝ彼をゝ知ずゝ
ゝゝふかゝ如体家たるものを はは
かくまで厳をゝゝ彼をゝ涙
の出づることも有をひしゝみ神をば
同情はひゝたるものゝ一か胸を深み
を嫌しく彼ふゝ彼ふゝ寄長を
はは彼彼をはゝ彼ゝ彼の彼
をを也ゝ宅れども意家を彼彼
意ゝ

神風相手は仏ゝ家中ゝ文宣を

うて むさき宅ゟれば 以書を相頼上
置く
神ゟ風説ゟ以伺之義中上ゟ文宣ゟて
かの事もよき知過成情なりとは兼ね
ゟ逝去ゟんと存かの事ハ書ゟ
をもかつゝれ時年ゟ扶ハ多籾ハ出来
ゟ義今成可愛盛ゟ以育ゟハ
時節を樂矢北域ゟ居せられて
法て聞ハ信ハ境界ゟハ無之籾ハ見
愛中義ハ東ゟ生、奥籾、皆ゟ籾
宜しくハ作せ上ゟ年成中ゟ成年い
以ゟハ生ハ籾ハ月ゟ新ゟ
ゟ存ゟ形敬れ愛しゟハ返
ゟのゟ

あれ
かしく

せゝゟ

うすゝひね

葵山様

以伺

廿七日

葵山様

以伴

[illegible]

[illegible]所

二番地

和田宮[illegible]

八月廿七日

御所巡査番所四番地

嚴谷様内[illegible]

生田葵山様

[illegible]

308

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]元亨の附録として
[illegible]の報告の
東京より当地に来る途中
のみを短かくかきつづりいたもの
富山日報に大振講演相のみ
かげをうつす
富山に来る途中
[illegible]日報の
[illegible]一新
りがある
川の風景
[illegible]言はれば
[illegible]
[illegible]人気
富山市と云
[illegible]人気
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓑山様

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北田薇氷女手柬五通　生田花朱人寫

本間文庫
文庫 14
C 72